

1 単元名 生きもの はっけん！ ～こんにちは わたしのザリガニさん～

2 単元について

本単元は、学習指導要領 生活科の内容における「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」のうちの「(7) 動植物の飼育・栽培」を中心とした学習として設定している。

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

子どもたちはこれまでに、第1学年「花とやさいをそだてよう」の学習において、年間を通して栽培活動をしてきた。春・夏には、アサガオの一鉢栽培やマリーゴールド、ヒマワリ、オシロイバナ、フウセンカズラ、エダマメからひとつを選択しての栽培活動、秋・冬には球根からチューリップ、フリージア、アネモネ、スイセンを育てた。また、学年園ではサツマイモ、キヌサヤ、イチゴの栽培を経験してきている。動物と関わる活動としては、飼育委員会と連携してのウサギとの触れ合いや、2年生が飼育しているザリガニを見せてもらうなどしてきた。生き物の栽培や飼育を体験する過程において、「元気にすくすく育てほしい」「収穫できるように最後までお世話をしたい」「できるだけ長生きしてほしい」といった思いをもつことができた。その思いを実現するために、生き物本来の生育環境や生態に目を向けたり、発見したことを友達と共有したりして、実現するために試行錯誤してきた。

これまで子どもたちは、第1学年でアサガオ、そして現在ミニトマトを「一人一鉢」で栽培している。自分がしっかり責任をもって生き物を育てるという体験を通して、日々の気付きの蓄積や愛着をもって育てるための自分なりの工夫、はっけんみどりカードでの表現力や思考力の向上など、より深い学びにつながっていると考える。

この単元では、体験を通して子どもたちが生き物に親しみをもち、大切にしようとする心情を育てるため、ザリガニの飼育を行う。1年生の頃に2年生との交流で触れたことがあり、親しみを感じている子どもも多い。また、自分でも飼ってみたいとあこがれをもっている子どもも少なからずいる。この時期の子どもたちにとって飼育がしやすく、脱皮したり産卵したりと変化や成長の様子をとらえやすいザリガニは適していると思われる。また、ザリガニの飼育活動への意欲化を図り、愛着を感じ、責任をもたせるために、「一人一匹飼育」に取り組む。ザリガニは大きなはさみを振り上げて目の前のものを挟もうとする習性があるので、子どもたちにとっては初めのうちは怖がるのが予想される。しかし、飼育をしていくことで次第にザリガニを掴めるようになり、自分の成長を実感できることにもつながる。また、学級内で子どもたち全員が共通の生き物であるザリガニを飼育することで、同じ思いもちやすくなる。そして、自分だけでなく友達の問題や疑問を共有することで、解決するためお互いに相談し合ったり、自分で調べたりするといった行動をし、ザリガニへの興味・関心はさらに深まるであろう。普段の生活の中でも会話の話題になる場面も多くなるであろう。子どもたちには、ザリガニを自分一人で育てる活動の中で「ザリガニは夜行性だから明るいところが苦手なんだ。」「隠れ家になるものを作ってあげなくちゃ。」「掃除をしないで水が濁ってしまうと、元気がなくなっちゃうね。」など、ザリガニの立場に立った見方や考え方をもちたい。そして、相手の気持ちになって物事を考えることができる自分自身の成長にも気付かせていきたい。

ザリガニの飼育を通して「食べる」「排泄する」「育つ」「産卵する」といった、生きる上での営みに触れる中で、感動を味わえる場面も多く生まれてくる。そして、自分の飼育しているザリガニが好む餌を見つけたり、糞の始末をしたり、住処の工夫や掃除をしたりするといった苦労は、ザリガニとの関わりを深める大切な体験となる。最も辛い体験であるザリガニの死に直面する場面も考えられる。その時には、自分の関わり方を振り返り、命の尊さに目を向けられるように丁寧に扱っていききたい。ザリガニが成長していく喜び、思い通りにならない歯がゆさを経験し、生命を大切にする気持ちを育てていきたい。

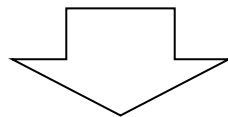
3 児童の実態（男子 14 名 女子 16 名 計 30 名）

学級の殆どの子どもたちが、生活科の学習を楽しんでいる。これまでの生活科の学習の中で、体験を通して学んだことに対する思いが、とても強いことがわかった。1年生の生活科の学習の中でいちばん楽しかった内容についても、昔遊び、スイートポテト作り、帆掛け船作りの3つが大半を占めている。その理由として、「練習して上手くなった」「料理ができた」「おいしかった」「みんなでやった」など、自分の成長が感じられたことや諸感覚を通して感じたこと、協力したときの気持ちが強く残っている活動であることが挙げられる。体験したことで感動がつながり、楽しく学べていたことがよくわかる。しかし、気になるのが、飼育・栽培活動について挙げている子どもが一人もいなかったことである。生活科を楽しんでいる理由として、飼育・栽培活動が挙げられているのに、それらが感動と強く結びついていないとも言えよう。本単元の学習を通して、自分のできることが増える体験が多くなる活動をし、自分の成長を感じられる場面を多く味わわせていきたい。

生き物との関わりの面では、家庭で飼育・栽培をしたことのない子どもは0人だった。しかし、自分一人で飼育・栽培をしている子どもはいない。また、ザリガニを飼育した経験のある子どもも少ないので、ザリガニの「一人一匹飼育」活動を通して、たくさんの発見から感動を感じ取ってもらいたい。

また、子どもたちが生活科の学習を通して、自分自身が身に付いたと実感している項目について調べたところ、「動物と遊ぶ」という項目のみが極端に低下していた。校内には常に「生きものランド」を常設しているが、実際にその場で生き物に触れるという体験をしている子どもは少ない。生き物を観察したり飼育・栽培したりすることはあっても、その先の触れ合いにまで到達できていないことがわかる。このことから、子どもたちには実際にザリガニを手にとって触れ合う活動を多く取り入れていきたい。触れ合いから新たな疑問を見つけ、その疑問を解決しようと追究し続けるための学びの自己調整力も育てたい。また、一人では何もできなくても、友達と関わり合うことで新しい道が拓けることがよくある。しかし、学習の中で関わり合いの時間を意図的に取り入れても、子どもたちにとっては、思考を深める本当の学び合いになっていないことも多くある。自分の発表から何か発見したり、友達の発言から採用できることを見つけたりすることができていない子どもたちが多く存在する。自分のことを客観視することが難しい発達段階でもあるので、友達との関わり合いや学び合いを充実させ、自分自身の変容や成長に気付くことができるようにしていきたい。そして、振り返りの時間を大切にして「何ができるようになったのか。」「何がわかるようになったのか。」「これからどうしていきたいのか。」など、学習を通して多くの満足感や達成感を味わわせていきたい。

これまでの実態調査を通して、飼育・栽培体験がある子どもたちにとっても、これまでに経験したことのない活動を企画し、実際に生き物に触れる時間を十分に設け、自己調整力を育みながら、学び合おうとする学習を進めることが重要だと考える。



単元を通して育みたい力

〈資質・能力〉

- 諸感覚を働かせて見つめ、気付き、工夫する力
- ザリガニや友達との関わりを通して学ぶ力
- 見つけたことを素直に表現できる力
- 責任をもって世話ができるようになった自分への自信

〈生活上必要な習慣・技能〉

- ザリガニに合った世話ができる。
- ザリガニを世話した後始末ができる。
- ザリガニが亡くなってしまったときにどうするか考えることができる。

4 単元の目標

生き物の飼育・栽培活動を通して、それらの育つ場所・変化や成長の様子に関心をもち、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができる。

5 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニを飼育することで、育つ場所や変化に関心をもち、自分と同じように生命をもっていることや、成長していることに気付くことができる。 ・自分のよさや得意としていることに気づき、友達と認め合いながら、そのよさを生かし合って共に学習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニのよりよい世話の仕方について、友達との関わり合いの中で見つけたり、比べたり例えたりしながら考えることができる。 ・気付いたことや考えたことなどについて、言葉・絵・動作・劇化などの多様な方法によって、友達と伝え合ったり振り返ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニへの親しみをもち、大切に育てようとするすることができる。 ・ザリガニの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもつことができる。 ・自らの思いや願いを明確にして活動に取り組み、自分自身の変容や成長に気付くことができる。

6 単元の指導計画（15 時間扱い）

次	時	学習活動〈◆〉と内容（○）	支援（○）と評価（☆）
第一次 生きものランドを引き継ぐ	1	<ul style="list-style-type: none"> ◆生き物について知っていることを話し合おう ○これまでに飼育や栽培をしたことのある生き物について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの生き物との関わりを取り上げ、学習のきっかけをつくる。 ☆身近にいる生き物に興味・関心をもって関わろうとしている。（態度）
	2	<ul style="list-style-type: none"> ◆3年生から「生きものランド」を引き継ごう ○3年生からザリガニを引き継ぐことについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ザリガニを飼育することに対する期待を膨らませるだけでなく、不安な面についても感じさせるなど、情緒面を揺さぶるようにする。 ☆ザリガニへの親しみをもち、大切に育てようとするすることができる。（態度）
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ザリガニの飼育について、3年生に聞きたいことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際にザリガニを飼育することになった場合に、自分が困りそうなことを想起できるようにする。 ☆ザリガニのよりよい世話の仕方について、友達との関わり合いの中で見つけたり、比べたり例えたりしながら考えることができる。（思・判・表）
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生からザリガニの世話の仕方を教えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○責任をもって最後まで飼育し続けることができるよう、不安なことや疑問をたくさん質問できるように促す。 ☆ザリガニの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもつことができる。（態度）
	5	<ul style="list-style-type: none"> ◆ザリガニと仲良くなる ○ザリガニに触れる体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ザリガニの気持ちになって優しく接するよう助言する。 ○生き物に触る前と触った後には、必ず手を洗うように徹底する。（常時） ☆気付いたことや考えたことなどについて、言葉・絵・動作・劇化などの多様な方法によって、友達と伝え合ったり振り返ったりすることができる。（思・判・表）
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ザリガニが快適に過ごせる住処について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図鑑や絵本などを参考にしながら、ザリガニが棲んでいる環境について考えるようにする。 ○3年生から教えてもらったことについても想起させる。 ☆ザリガニの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもつことができる。（態度）

第二次 ザリガニと仲良くなろう	7	○ザリガニが好んで食べる餌について話し合う。	○ザリガニが好んで食べ、自分で用意できそうな餌について考えさせる。 ○餌を与えすぎると、水質が悪化することについても触れる。 ☆ザリガニを飼育することで、育つ場所や変化に関心をもち、自分と同じように生命をもっていることや、成長していることに気付くことができる。(知・技)
	8	○ザリガニの住処と餌について調べる。	○自分の飼育ケースのできるザリガニの快適な住処や餌について考え、疑問やわからないことはコンピュータで調べたり、友達同士で助言し合えたりするようにする。 ☆自らの思いや願いを明確にして活動に取り組み、自分自身の変容や成長に気付くことができる。(態度)
	9	○自分が飼育するザリガニを選ぶ。	○ザリガニの扱いが得意な子に、掴み方のお手本を示してもらおう。 ○共食いをしないように一匹ずつ飼育するようにする。 ○愛着がもてるように名前を付けさせる。 ○脱走しないように、触れない場合は蓋をしっかりするように声をかける。 ☆ザリガニへの親しみをもち、大切に育てようとすることができる。(態度)
	課外	○ザリガニを飼育する。(常時)	○水温・水質の変化が激しくならないように、飼育ケースの水位は一定に保つようにする。 ○水草を入れる場合は無農薬のものを入れるようにする。 ☆ザリガニを飼育することで、育つ場所や変化に関心をもち、自分と同じように生命をもっていることや、成長していることに気付くことができる。(知・理) ☆ザリガニのよりよい世話の仕方について、友達との関わり合いの中で見つけたり、比べたり例えたりしながら考えることができる。(思・判・表)
	10	○ザリガニの飼育を通して、住処や餌について工夫したことや発見したことを教え合う。	○生き物の様子や変化を忘れないように、メモを残して記録させるようにする。 ☆ザリガニを飼育することで、育つ場所や変化に関心をもち、自分と同じように生命をもっていることや、成長していることに気付くことができる。(知・技)
第三次 ザリガニの秘密 発見!	11 本時	◆ザリガニの秘密 発見! ○ザリガニの体のつくりや動きなどについて、飼育を通して発見したことや秘密を友達と伝え合う。	○生き物掲示板を常時設置しておき、飼育していて気付いたことや、不思議に感じたことなどの情報を交換し、意見が出やすいような環境を整える。 ○飼育を通して発見したことや友達に伝えたいこと、実際に試してみたいことなど、たくさんの意見が出るよう促す。 ○気付きの質を高めるために、「比べる」「見直す」活動を意識して取り入れられるよう助言する。 ☆気付いたことや考えたことなどについて、言葉・絵・動作・劇化などの多様な方法によって、友達と伝え合ったり振り返ったりすることができる。(思・判・表)
	12	○体のつくりや動きなどについて、友達から教えてもらった秘密を確かめてみる。	○ザリガニと触れ合うときの注意点について確認し、安全に触れ合えるようにする。 ☆自らの思いや願いを明確にして活動に取り組み、自分自身の変容や成長に気付くことができる。(態度)
	課外	○ザリガニ不思議図鑑をつくる。 (他教科との関連)	○生き物と触れ合ったりした体験を、他教科にも生かせるようにする。
	13 ・ 14	○ザリガニの飼育を通して、感動したことや気付いたことなどを、1年生にわかりやすく伝える。(2)	○伝える相手を意識して実物を見せるなど、わかりやすく説明できるように助言する。 ○生きものランドを引き継ぐ相手であることを意識させ、自分たちが飼育活動を通して学んだことを、気持ちを交えて伝えられるようにする。 ☆ザリガニを飼育することで、育つ場所や変化に関心をもち、自分と同じように生命をもっていることや、成長していることに気付くことができる。(知・技) ☆自らの思いや願いを明確にして活動に取り組み、自分自身の変容や成長に気付くことができる。(態度)
15	○ザリガニの他にどんな生き物を飼育してみたいか話し合う。(1)	○秋・冬に飼育できそうな生き物について、生命の大切さを考えながら話し合いを進めさせる。	

7 感動を通して自ら追究し続けるための学習のプロセス（であい・ふれあい・まなびあい）

☆であい ー諸感覚を働かせてー

子どもたちがザリガニと関わり合いながら活動するには、高い興味・関心を維持し、継続して飼育することが大切だと考える。そのためには、常にザリガニとの関わりがある環境を整え、子どもたち自身がザリガニを身近な存在だと気付かせる。また、実際に触れたり匂ったりする機会を設けることで、たくさんの感覚を働かせてザリガニと接する。そうすることで、「今日も元気そうで良かった。」「昨日と色が変わっているぞ。」「水が匂ってきたから、水換えをしなくちゃ。」など、たくさんのであいの中から、新たな思いや願いが生まれると考える。

☆ふれあい ー交流から心を働かせてー

飼育しているザリガニが日々元気に生きていることが、子どもたちにとっては当たり前だと思いがちである。しかし、必ず生き物には死が訪れる。常にザリガニと触れる環境をつくることで、「あれ？ザリガニがはさみを振り上げて威嚇してくれないぞ。どうして、元気がないのかなあ？」「餌をぜんぜん食べてないや。」など、いつもと違う変化に気付いたり、見つけたことやわかったことを通して、生命を感じたりすることで、生きていることへの喜びを感じたりすることができる。また、友達から教えてもらうことで、一人では気付かなかったことを発見することもある。「〇〇ちゃんからオス・メスの見分け方を教えてもらったよ。ぼくのザリガニはおなかの足が長いから、メスだったんだ。」「ザリガニは脱皮をする前に動かなくなることがあるって〇〇君に教えてもらったよ。」など、友達との交流を通して、より良い人間関係を築くことにもつながると考える。

☆まなびあい ー気付きを友達と共有してー

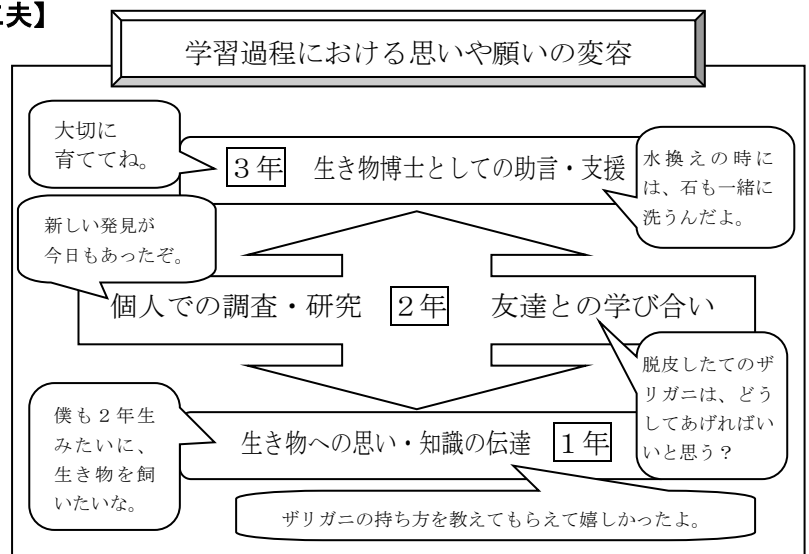
発見したことや感じたことなどを伝え合う場を設定することで、「わたしのザリガニはすぐに隠れちゃうから、恥ずかしがり屋さんなのかなあ。」「ザリガニも比べてみると、一匹ずつ色がみんな違うんだね。」など、お互いの気付きを共有したり深めたりすることができる。そこで得た新たな気付きや疑問は、次の活動の原動力になり、子どもたち自らが次の活動を考え、新しい気付きを生み出すという学びが繰り返されるのではないかと考える。

8 視点について

〈視点1〉学習意欲を喚起する手立ての工夫 【生き物に関心を寄せられる単元構成の工夫】

ザリガニを飼育することで最も重要なことは、いかに飼い主がそのザリガニへ高い興味と関心を寄せられるかということである。ザリガニの飼育に対して高い関心を維持させるために、3年生から「生きものランド」を引き継ぐという活動を設定する。これまでの2学年たちが引き継いできた生き物を、今度は自分たちが育てていくということを知り、より高い責任を伴った飼育活動をめざさなくてはならないので、「簡単な気持ちで飼育することはできない。」「次の2年生のためにも、より良い状態で生きものランドを引き継ぎたい。」といった気持ちを育てていく。

また、困った事や悩み事がある場合は、自分で調べたり、友達に聞いてみたり、3年生に相談してみたり、解決に向けてたくさんの思考を働かせることになる。さらに、自分たちが育ててきた生き物を今の1年生に引き継ぐために、学んだことや知っている知識をしっかりと伝えていきたいという思いも芽生えるであろう。同学年での学び合いや他学年との関わりを通して、学習意欲が継続されていくことを期待している。さらに、子どもたちの生活環境に常に生き物と関わる機会を増やしていく。ザリガニだけでなく、教室内でのメダカやタニシ、カタツムリの飼育、学年園の充実、一鉢栽培の継続、緑の小道でのビオトープづくりなどを通して、生き物との触れ合いの日常化を図る。



【学びのあしあとや変容を意識させる振り返りの工夫】

この時期の子どもたちにとって、自分のことを客観視することは難しい。そこで、学習して培った学びを次の学習でも生かしたり、自分の思考や感情の変容を意識しやすくするために、振り返りの時間を大切にしていきたい。生活科では、思いや願いを実現する過程において、自分自身の成長に気付くことや、活動の楽しさや満足感、成就感などの手ごたえを感じることで、一人一人の意欲や自信につながると考える。そこで、この意欲や自信が、自らの学びを次の活動やこれからの生活に生かしたり、新たなことに挑戦したりしようとする姿につながるように、学習中の振り返りの手立てとして「おとはっば」を活用する。「おとはっば」は3段階の自己評価を色で表現できるので、自分の気持ちや思いをうまく文章で表現できない子どもでも、抵抗感が少なく振り返りができる。また、本単元の「生きものはっけん！」の学習で、自分の感情や満足度を表すことができる「生きものさし」も並行して活用する。そうすることで、今までの自分の学習の経過を振り返りやすくし、その時間に体験した記憶やその時の自分の気持ちの変容について、客観視しやすくなる。振り返りを充実させることによって、自分の関わり方をとらえ、過去・現在の自分と比べるだけでなく、自分の理想の姿をより明確に描けることにつながり、自己実現のために問題解決に向けて考える子どもたちが育成されると思われる。

〈視点2〉問題解決に向けた思考力を育む指導の工夫

【触れ合いから学びを深め、共に成長する一人一匹の飼育活動】

「生命を大切にする」ということは、どの子どもも何となく理解しているが、昆虫や植物などの採集をしたあとに、最後までしっかり責任をもって世話をしている子どもは少ない、また、途中から家族の協力を頼ってしまい、責任をもって飼育することの経験も少ない。これらのことから、生命を大切にしているとはいえない。生きものランドを3年生から引き継いだ子どもたちは、責任と期待の中で生き物の飼育を体験する。そのうち、自分一人だけでも生き物を飼育してみたい、自分だけの特別な生き物と関わりをもちたいと感じるようになる。飼育に対する興味や関心などの心情面での高まりが最高潮に達した時に、ザリガニを一人一匹飼育していくことにする。毎日世話をするという責任と関わりの中で、自分の飼育しているザリガニに対して愛着をもつことにつながると考える。「オスとメスとでは、はさみの大きさが違うよ。」「僕があげた餌をすぐに食べてくれるようになったよ。」「わたしのザリガニが脱皮している。元気に大きく育ててくれたんだ。」という新しい発見や喜びが感動の体験になる。また、「朝来たら、ザリガニが脱皮に失敗して死んでしまっていたよ。ザリガニにとって脱皮は本当に大変なんだな。」という辛い体験や衝撃的な体験をすることで、自分の飼っているザリガニに寄り添った考え方や見方が育ち、生命を大切にすることを育てることができるだろうと考える。また、学級全員が同じ生き物を飼育することで、新しい発見や困ったことなどを教え合ったり助け合ったりする場面も発生し、相互に思考力を働かせることにもなるであろう。そして、「餌をどのくらいあげればいいのか、わかってきたよ。」「毎日しっかりお世話ができるようになったよ。」「最初は掴めなかったけど、一人でも掴めるようになったよ。」と、自分自身の成長に気づき、自分の学びを実感できるようにもなると考える。

【一人で見つめる — みんなと共有する — みんなで見直す のスパイラルを通した学び合い】

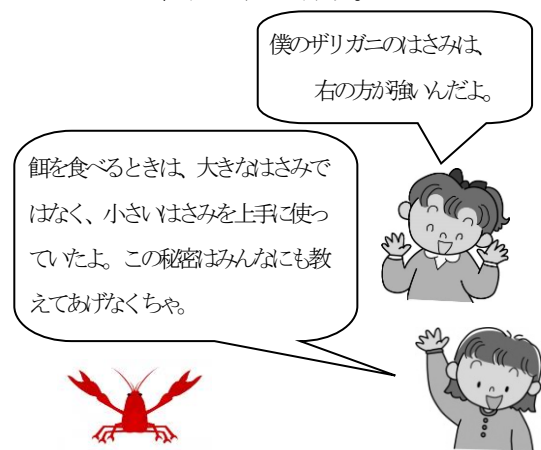
ザリガニ飼育を継続していくことで、毎日ザリガニと関わることになり、愛着は日々増していくであろう。この気持ちこそが、生き物を見つめる目と生命を大切にすることを育てる土台となる。毎日世話をするという経験を通して、自分が飼育しているザリガニの変化や疑問、困っている事なども出てくるであろう。特に、飼ったことのない生き物を飼いはじめると、その生き物のことを知らないと飼うことはできないため、子どもの手の届くところに生き物図鑑や絵本を置いて、自由に調べることができるようにする。ザリガニを身近に置いて観察する中で、発見したことを忘れないように、「生き物掲示板」を設置し、日々記録できるようにする。発見したことやみんなに伝えたいことの記録を表示していくことで、友達同士の情報交換に役立ち、飼っているザリガニへの気付きをさらに深められると考える。これまで特に困り感の無かった子どもたちも、生き物掲示板を見ることで観察の視点を変えたり、自分のザリガニの様子を再確認したりすることで、「もう一度見てみよう。」「友達のザリガニはどうなっているのかな。」と、よりじっくり見直すことができる。このように比べる活動を重視することで、「見つめる」「共有する」「見直す」活動の連続が繰り返し行われ、日常的に自分と友達のザリガニを比べるようになり、共通性や多様性などの気付きを関係付けたり意味付けたり、整理されていくことで学習意欲が継続され、子どもの思考力がより深まると考える。

9 本時の指導

(1) 目標

○自分が知っているザリガニの「体のつくり」「動き」「性格」について、これまでの飼育を通して発見した秘密を、自分なりに表現して伝えることができる。

(2) 展開 (11/15)

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (☆)
<p>1 これまでのザリガニの飼育を通して、発見したことや友達と共有した出来事について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ザリガニは慣れてくると、餌を入れたらすぐに食べてくれるよ。」 ・「はさみを振り上げるタイプのザリガニと、すぐに逃げるタイプのザリガニがいるんだよ。」 <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○これまでの飼育体験から、ザリガニの成長の様子や変化などの意見がたくさん出るように、話しやすい雰囲気づくりを心掛ける。</p> <p>○話すことが難しい子どもには、これまで記録してきた生き物ファイルを見ながら話してもいいことを伝える。</p> <p>○ザリガニの「体のつくり」や「動き」「性格」についての分類を提示し、自分が伝えたいことがどれなのかを理解できるようにする。</p>
<p>じぶんのザリガニのとおきのおきのひみつを みんなにつたえよう。</p>	
<p>3 自分の飼育しているザリガニを観察する。(じっくりタイム5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一匹飼育容器を用意する。 ○観察してわかったことを発見シートに記録する。 <p>【 予想される分類列 】</p> <p>体のつくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目 ・口 ・はさみ ・触覚 ・性別 <p>動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・威嚇の仕方 ・逃げ方 ・歩き方 ・食べ方 <p>性格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獷猛 ・温和 ・マイペース ・せっかち <p>4 同じ分類について調べている友達と、発見したことや秘密を伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>僕のザリガニのはさみは、右の方が強んだよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>餌を食べるときは、大きなはさみではなく、小さいはさみを上手に使っていたよ。この秘密はみんなにも教えてあげなくちゃ。</p> </div> 	<p>○諸感覚を働かせて集中して観察するために、2分間自分のザリガニとじっくり向き合う時間を確保する。</p> <p>○残りの3分間で、発見シートに自分のザリガニを観察していて気付いたことや秘密など、みんなに伝えたいことを記入するよう声をかける。</p> <p>○発見シートがなかなか書けなかったり、文章でうまく表現できなかったりする子どもには、簡単な言葉や箇条書き、絵で表現してもいいことを伝える。</p> <p>○それぞれ別々の分類ごとに調べていても、必ずどこかで共通する内容があったり、関わり合っていたりする項目があることに気付けるよう促す。</p> <p>○緊張感を感じすぎないように、3～4人の小グループで話し合うようにする。</p> <p>○発見した秘密について、実際にザリガニを見せたり、言葉だけでなく動作化させたりして伝えるとわかりやすいことを助言する。</p> <p>○自分の考えをうまく伝えられない子どもには、生き物ファイルや生き物掲示板を参考にしてもいいことを伝える。</p>

ぼくのザリガニは、手をかざすと
すくはさみを振り上げるんだよ。



ぼくのザリガニは、すくは隠れ家の中に引っ込んで
ちゃうんだ。恥ずかしがり屋さんなのかな？

もしかしたら、二人のザリガニはど
ちらも臆病なのかもしれないよ。
はさみを振り上げるのは、弱さを隠
しているだけじゃないかな？



5 小グループで共有したお互いのザリガニの秘密
を、学級全体で発表する。



はさみと同じように、触覚もたく
さん動いてたから、触覚グル
ープの秘密が聞きたいな。

人間は目が正面についているけれど、ザ
リガニは飛び出しているから、いろい
ろな方向を見えています。私のザリガニは
、後ろから手を近づけるだけでしっ
かり反応していたから、間違いない。

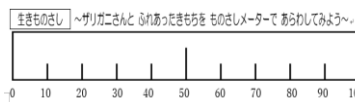


僕はザリガニの逃げる様子を表現し
ます。はさみ前へ做えのようにこ
うして、お尻はこんな感じで..

6 振り返りと後片付けをする。



【おとはっぱ】
⊕ 思ったこと・感じたこと・
またやりたい
⊖ 友達と関わって
⊕ 発見したよ



【生きものさし】
その学習時間にザリガニと触れ合った気持ちを数
値・数量化し、自分がどのような気持ちでザリガ
ニと関わってきたのかがわかる指標。

○自分のザリガニだけでなく、友達のザリガニとも比較
させ、共通点や相違点を分別して考えられるようにす
る。

○たくさんの意見の交換ができるように、どのような考
えでも認めてあげるようにする。

○同じ分類を調べていても、共通することや違うことを
確認することによって、ザリガニという生き物でも、
斉一性や多様性があることに気付かせる。

○自分の思うように観察や試しの実験ができない子ども
には、友達のやっている方法を参考にしてもいいこと
を伝える。

☆気付いたことや考えたことなどについて、言葉・絵・
動作・劇化などの多様な方法によって、友達と伝え合
ったり振り返ったりすることができる。(思・判・表)

○小グループで話し合っ確認した秘密について発表し
合い、自分の調べていた分類以外の情報を共有でき
るようにする。

○言葉で説明しにくくことは、ぼうけんくんと実物投影機
などを活用したり、動作化して表現させたりするこ
とで、視覚的に捉えやすくさせる。

○ザリガニの観察を通して、自分が調べていた分類以外
のザリガニの秘密について興味をもてた子どもを、学
級全体の場で称賛する。

☆自分のよさや得意としていることに気づき、友達と認
め合いながら、そのよさを生かし合っ共に学習する
ことができる。(知・技)

○それぞれのグループの発表を聞いて、ザリガニの体
のつくりや動きなどの秘密について、自分でも確かめ
てみたいことや感想を発表させ、次時につなげるよう
意欲化を図る。

○学習を通して学んだことを、「おとはっぱ」や「生きも
のさし」でも振り返り、これまでの自分とこれからの
理想の自分をイメージできるような助言をする。

○ザリガニには微生物や細菌、寄生虫が潜んでいる可能
性があるので、感染症を防ぐために、触れた後は必ず
石鹸でしっかり手を洗うように声をかける。

